

## II. 分担研究報告書

### わが国の女性の飲酒行動に関するインタビュー調査（20FA1003）

研究分担者 春日秀朗<sup>1</sup>、金城文<sup>2</sup>、兼板佳孝<sup>3</sup>、神田秀幸<sup>4</sup>、井谷修<sup>3</sup>、真栄里仁<sup>5</sup>、地家真紀<sup>6</sup>、吉本尚<sup>7</sup>、伊藤央奈<sup>8</sup>、樋口進<sup>5</sup>、大塚雄一郎<sup>3</sup>、美濃部るり子<sup>5</sup>、桑原祐樹<sup>2</sup>、尾崎米厚<sup>2</sup>

- 1 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
- 2 鳥取大学医学部社会医学講座環境予防学分野、
- 3 日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野
- 4 岡山大学大学院医歯薬総合研究科公衆衛生学分野
- 5 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
- 6 昭和女子大学生活科学部食安全マネジメント学科
- 7 筑波大学医学医療系 地域医療教育学
- 8 郡山女子大学家政学部

#### 研究要旨

女性の飲酒率、問題飲酒者割合は減少がみられておらず、女性の飲酒問題が重要な健康課題となっている。本研究は、女性の多量飲酒につながる要因を明らかにする目的で面接調査を行い、現在の飲酒行動の特徴、現在の飲酒行動に至る経緯について尋ねた。調査時の飲酒量が純アルコール換算 140g以上で、かつ医療機関でアルコール依存症と診断されていない女性 30 名を本分析の対象とした。得られたデータを用いてオープンコーディングを行い、飲酒または多量飲酒につながる 6 つの要因に要約した。女性の多量飲酒につながる要因として、「飲酒・酔酩が目的」、「手段的飲酒」、「ライフイベント・生活の変化」、「ストレス」、「環境要因」、「習慣的」の 6 つを抽出した。ライフイベントやストレス、手段的飲酒など本研究で抽出された要因と共通する項目も多く、それらの重要性が改めて確認できた。一方で、“車を運転しない生活”、“一人暮らし”、“自由”、“空き時間の増加”などの生活の変化や、“家族が飲酒に肯定的”、“安価・大量に入手可能”、“外食・飲み放題だと止まらない”などは本研究に特徴的な項目である。令和4年度は本研究の結果をもとに、女性の飲酒に関するウェブ全国調査を行い、個人的要因やアルコールへのアクセスについて量的に分析し、女性の問題飲酒を防止する方策について提言する。

研究協力者：川井田恭子（筑波大学医学医療系）、藤井麻耶（鳥取大学医学部環境予防医学分野）

#### A. 研究目的

国民健康栄養調査や成人の飲酒に関する全国調査によると、わが国の成人男性では飲酒率、問題飲酒者の割合ともに漸減傾向にある一方、女性では飲酒率・問題飲酒者割合は横ばいであり、相対的に女性の飲酒問題が重要

な健康課題となってきた[1]-[3]。飲酒に起因する死亡についても、男性では漸減傾向、女性では増加傾向がみられる[4]。特に、若年者の間では、女性の飲酒率や多量飲酒者割合の男性との格差が縮まっており、飲酒行動の男女接近状況が観察されている[1]-[3][5]。このような状況を受けて、妊娠出産を経験する可能性のある世代、子育て世代の女性の飲酒問題の実態把握が急がれる。

従来、アルコール依存症患者は圧倒的に男

性に多く、依存症やその予備群に対する実態、診断、治療、社会復帰に関する調査研究は、必然的に男性中心の対象者で実施されてきた。相対的に女性の飲酒が重要視される中で、女性の飲酒行動の実態を明らかにし、問題飲酒者への対策を構築することが今後の国民の健康を維持増進するうえでは重要である。

本研究では、女性の飲酒行動に着目した実態調査を行う。任意に選んだ女性の多量飲酒者に対して、面接調査を行い、現在の飲酒行動の特徴、現在の飲酒行動に至る経緯をインタビューし、女性の問題飲酒につながる背景要因を探る。

2022年度は、本研究の結果を元に、調査票を開発し、ウェブ調査により若年者や女性の詳細な飲酒行動を明らかにする。これらを分析することにより、若年成人や女性の問題飲酒を防止するための方策を提言する。

## B. 研究方法

### 1. 研究参加者

女性で、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者を本研究の対象者とした。生活習慣病のリスクを高める量の飲酒は、「健康日本 21（第二次）」の目標として用いられている値であり、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で 40g 以上、女性で 20g 以上にあたる[1]。本研究では、1日当たりの飲酒量×週当たりの飲酒頻度から、週当たりの純アルコール摂取量が 140g を超える女性を本研究の対象者とした。対象者のリクルートは、研究代表者、研究分担者の知人を介して、女性の多量飲酒者を探し、調査協力の打診をもらい、協力の意思を示した人に研究代表者、研究分担者から連絡し、対面またはオンラインでのインタビュー調査を実施した。

### 2. インタビュー調査実施方法

インタビュー調査は、2021年9月から2022年1月に実施した。研究への協力意思を示した研究参加者に対して、はじめに、インタビュアーが文書を用いて本研究の概要を説明し、研究参加者から書面で同意を取得した。研究参加者が、調査票①と②に自記式で回答したのちに、インタビュアーが調査票①と②を参考にしながら、調査票③の内容について、インタビューを行った。インタビュー終了後に、研究参加者へ謝礼の QUO カード 5,000 円分を手渡した。インタビュアーは、インタビューをおこなった内容を研究参加者ごとにレポートにまとめたのち、書類一式を本研究の事務局である鳥取大学環境予防医学分野に郵送した。

### 3. 結果の分析

得られたインタビュー結果を匿名化したのち、インタビュー結果を元に、オープンコーディングをおこなった。

(倫理面への配慮)

調査に当たっては、本研究の概要を説明し、書面による承諾の得られた研究参加者に対して実施した。研究計画は、鳥取大学医学部倫理審査委員会で審査され、承認された[承認番号：21B005]。

## C. 研究結果

調査時の飲酒量が純アルコール換算 140g 以上で、かつ医療機関でアルコール依存症と診断されていない女性 30 名を本分析の対象とした。

得られたデータを用いてオープンコーディングを行い、飲酒または多量飲酒につながる 6 つの要因に要約した。1 つ目は「飲酒・酔酩が目的」であり”お酒の味が好き”、”飲酒が趣味”、”酔った感覚を求めて”、”自分へのご褒美”からなる。これらは飲酒もしくは酔酩感を

得ることそのものを求めてのものである。2つ目は「手段的飲酒」であり、“仕事とプライベートの区切り”、“1日を締め”、“睡眠の導入”、“趣味のお供”、“食事の向上”、“イベントの添え物”からなる、飲酒によって何らかの価値を付加することを目的としたものである。3つ目は「ライフイベント・生活の変化」であり、“授乳期間の終了”、“子育ての完了”、“就職”、“近親者の喪失・離婚”、“車を運転しない生活”、“一人暮らし”、“自由”、“空き時間の増加”からなる、人生上で生じた何らかの出来事をきっかけとして飲酒または多量飲酒が開始したものである。4つ目は「ストレス」であり、“現実逃避の手段として”、“仕事のストレス”、“育児ストレス”、“家族関係のトラブル”、“多忙な生活”、“コロナ禍でのストレス”が挙げられた。これらのストレスを発散するため、またはストレスフルな状況から逃避する手段として飲酒が選択されていた。5つ目は「環境要因」であり、“夫が飲む（夫と飲む）”、“家族・友人・同僚と飲む”、“外食時”、“家族が飲酒に肯定的”、“安価・大量に入手可能”、“飲み放題”が挙げられた。これらは周囲の人間や置かれている環境が、飲酒につながりやすいもの、飲酒に肯定的なイメージを形成しやすいものであった。最後に6つ目として「習慣的」が抽出された。これは“飲酒が習慣になっている”、“キッチンドリンク”、“意識するまでもない生活の一部”、“晩酌”、“帰宅したらまず飲むもの”、“のどが渴いたとき・水の代わりに”から成る。こちらは理由があって飲酒されるのではなく、すでに生活の一部として習慣づいているものをさす。

#### D. 考察

飲酒につながる要因としては遺伝的要因や環境的要因、心理的要因などから多くの研究が行われてきた。ライフイベントやストレス、手段的飲酒など本研究で抽出された要因

と共通する項目も多く[6]-[8]、それらの重要性が改めて確認できた。一方で、“車を運転しない生活”、“一人暮らし”、“自由”、“空き時間の増加”などの生活の変化や、“家族が飲酒に肯定的”、“安価・大量に入手可能”、“外食・飲み放題だと止まらない”などは本研究に特徴的な項目である。両者はアルコールへのアクセスを容易にするという点で共通している。アルコールへのアクセスについては酒類の広告自主規制はあるが十分でなく、世界保健機関（World Health Organization、WHO）が最も費用対効果が良く、実施可能性が高い対策として提唱する“Best buys”をわが国でも導入することが女性の多量飲酒防止にも有効であろう[9]。さらに、本研究で示された個人的な要因に対しては、多量飲酒のリスクや女性が多量飲酒になりやすい状況についての正確な情報を発信していくとともに、女性の多量飲酒を早期発見し、介入を行うのに有効な方法を開発していくことが求められるであろう。

令和4年度は、本研究の結果をもとに、女性の飲酒に関するウェブ全国調査を行い、個人的要因やアルコールへのアクセスについて、多量飲酒をしない女性との比較により、量的に分析する。

#### E. 結論

本研究では多量飲酒のある女性にインタビュー調査を行い、女性の多量飲酒につながる要因として、「飲酒・酩酊が目的」、「手段的飲酒」、「ライフイベント・生活の変化」、「ストレス」、「環境要因」、「習慣的」の6つを抽出した。令和4年度は本研究の結果をもとに、女性の飲酒に関するウェブ全国調査を行い、個人的要因やアルコールへのアクセスについて量的に分析し、女性の問題飲酒を防止するための方策を提言する。

参考文献

[1] 厚生労働省. 令和元年「国民健康・栄養調査」の結果.

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_14156.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html) (2022 年 5 月 6 日最終アクセス)

[2] Osaki Y, Kinjo A, Higuchi S, et al. Prevalence and Trends in Alcohol Dependence and Alcohol Use Disorders in Japanese Adults; Results from Periodical Nationwide Surveys. *Alcohol Alcohol*. 2016;51(4):465-473.

doi:10.1093/alcalc/agw002

[3] 尾崎米厚. 平成 30 年度 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 飲酒や喫煙等の実態調査を生活習慣病予防のための減酒の効果的な介入方法の開発に関する研究. 総括・分担研究報告書, 2019.

[4] Kinjo A, Purevdorj B, Okada T, et al. Trends and differences in alcohol-related mortality rates by gender and by prefectures in Japan between 1995 and 2016. *Drug Alcohol Depend*. 2021;221:108586.

doi:10.1016/j.drugalcdep.2021.108586

[5] Fujii M, Kuwabara Y, Kinjo A, et al. Trends in the co-use of alcohol and tobacco among Japanese adolescents: periodical nationwide cross-sectional surveys 1996-2017. *BMJ Open*. 2021;11(8):e045063. Published 2021 Aug 4. doi:10.1136/bmjopen-2020-045063

[6] 井上輝子. 女性学への招待 変わる/変わらない女の一生, 有斐閣選書, pp. 161-162, 1992

[7] 鈴木裕子, 宮城重二. 中高年者の飲酒行動及び健康状態に関する要因分析. *民族衛生*;66:4, 2000.

[8] Stroebe M, Schut H, Stroebe W. Health Outcomes of bereavement. *Lancet*; 370: 9603: 1960-1973, 2007

[9] World Health Organization. Tackling NCDs: 'best buys' and other recommended interventions for the prevention and control of noncommunicable diseases.

<https://www.who.int/publications/i/item/WHO-NMH-NVI-17.9>

(2022 年 5 月 23 日最終アクセス)

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

2. 学会発表

(巻、号、ページ、発表年も)

H. 知的財産権の出願・登録情報

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

# 調査票① 飲酒と生活習慣に関する調査（面接）

調査地点番号			対象番号		面接担当者	調査月日
						年 月 日

★ 調査時間  
 ※24時間制で記入

(開始) 時 分

(終了) 時 分

所要時間 分

[調査員注：以下を読み上げてください]

わが国では、男性の飲酒率が減少する一方、女性の飲酒率は横ばいかやや増えており、女性に対するアルコール健康障害対策が重要となってきています。対策を考えるにあたり、お酒をよく飲む女性からお酒とのかかわり方やお酒を飲む要因などについて調べています。一見アルコールに関係のない質問や、お気にさわる質問、あなたご自身にあまり関係のない質問をお尋ねしますが、学術研究調査という目的をご理解いただき、最後までお答えいただきますようお願いいたします。

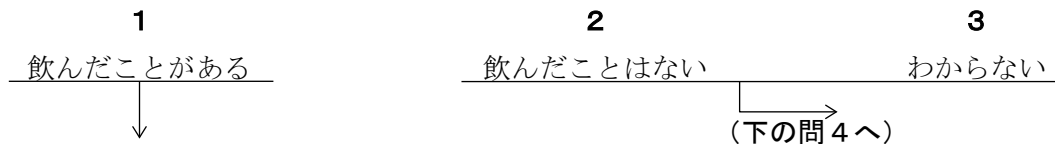
問1. あなたは、平均するとお酒をどれくらいの頻度で飲みますか。＜面前記入調査＞

- |                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 1 (ア) 毎日2回以上   | 6 (カ) 1ヵ月に2～3日                   |
| 2 (イ) 毎日1回     | 7 (キ) 1ヵ月に1日                     |
| 3 (ウ) 1週間に5～6日 | 8 (ク) 1年間に6～11日                  |
| 4 (エ) 1週間に3～4日 | 9 (ケ) 1年間に1～5日                   |
| 5 (オ) 1週間に1～2日 | 10 (コ) 過去1年間は飲酒していない (7ページの間14へ) |

問2. この30日間では、何日お酒を飲みましたか。

日      00 一度も飲んでいない      99 わからない

問3. この30日間で、1度に純アルコールで60グラム以上相当のお酒を飲んだことはありますか。純アルコールで60グラム以上相当とは、ビールの500ミリリットル缶で3本以上、日本酒で3合以上、焼酎で300mL (1.7合)以上です。[調査員注：アルコール換算表も参照する]



付問1では、1度に純アルコールで60グラム以上相当のお酒をどれくらいの頻度で飲みますか。

- |          |        |      |        |          |
|----------|--------|------|--------|----------|
| 1        | 2      | 3    | 4      | 5        |
| (ア)      | (イ)    | (ウ)  | (エ)    | (オ)      |
| 飲んだことはない | 年に1回以下 | 年に数回 | 月に1、2回 | 週に1、2回以上 |

問4. (女性の方に) 2時間ほどの間に、純アルコール 50 グラム以上のお酒を飲むことがありますか。あるとすればどのくらいの頻度ですか。純アルコールで 50 グラム以上相当とは、ビール 1250 ミリリットル以上、日本酒で 2.5 合以上です。

- 1 (ア) 飲んだことはない
- 5 (オ) 週に1、2回
- 2 (イ) 過去にはあるがここ1年はない
- 6 (カ) 週に3、4回
- 3 (ウ) 年に数回
- 7 (キ) 毎日あるいはほとんど毎日
- 4 (エ) 月に1、2回

問5 ふだんお酒を飲むときには、1日に何をどれくらい飲みますか。よく飲むお酒の種類に○(1~9で○はいくつでも)をつけて、お酒の種類ごとにアルコール度数(%) (それぞれの種類ごとに○は一つ)と飲む量を記入例を参照してお答えください。この表の1~9に当てはまらない場合は、右ページ(補足)に具体的にご記入ください。4ページの一覧表もご参照ください。<答えづらければ、調査員に回答や計算を支援してもらってください>

お酒の種類(○はいくつでも)	アルコール度数(%) (それぞれの種類ごとに○は一つ)	1日に飲む量 (該当の欄に数字を記入)
<b>記入例</b> ① ビール・発泡酒 (5度が一般的)	<b>記入例</b> 5% 7% 9% その他( )% わからない	<b>記入例</b> 350ml ( 2 )本 500ml ( 1 )本 ( )ml
1 ビール・発泡酒 (5度が一般的)	5% 7% 9% その他( )% わからない	350ml ( )本 500ml ( )本 ( )ml
2 日本酒 (15~16度が一般的)	15~16% その他( )% わからない	( )合
3 焼酎	20% 25% 37~40% 43~45% その他( )% わからない	( )合
4 酎ハイ類	5% 7% 9% その他( )度 わからない	350ml ( )本 500ml ( )本
5 ハイボール (ウイスキーの炭酸水割り)	7% 9% その他( )% わからない	350ml ( )本 500ml ( )本
6 カクテル類	3~4% 5~6% 7~8% 9%以上 その他( )% わからない	350ml ( )本 500ml ( )本
7 ワイン	白ワイン(12%~14%が一般的) 赤ワイン(12%~16%が一般的) その他( )% わからない	ワイングラス ( )杯 または ボトル ( )本
8 ウイスキー、ブランデー、 ジン、ウォッカ、ラムなど (ハイボールは5へ)	〈原酒〉 40~43% その他( )% 〈水割り〉 5% 7% 9% その他( )% わからない	原酒 ( )ml 350ml ( )本 500ml ( )本

<b>9</b> その他(梅酒など) * 自家製は含めません	3～5%	6～10%	11～13%	50ml ( )本
	14～15%	16～19%		160ml ( )本
	その他( )%			250ml ( )本
	わからない			350ml ( )本
				( )ml

補足(問5)左の1～9に当てはまらない場合や、どれに○をつければよいのか迷う場合は、下記にご自由にご記入ください。(記入例や下段の注意事項をご参照ください。)

例① 焼酎(25度)のお湯割り(焼酎4でお湯6の割合)を200ccくらいのコップで3杯。
例② 2人で日本酒の冷酒360mlびん1本。
例③ 5%のビール350cc缶1本飲んだ後に、9%の発泡酒(ロング缶)1本。
例④ お店で、ビール中ジョッキ1杯と酎ハイ中ジョッキ1杯。
<b>記入欄</b>

**(自宅で飲む場合の注意)**

【お酒の種類】…焼酎かウイスキーか梅酒か、などお酒の種類をご記入ください。

種類が分からない場合は、商品名でも構いません。

【アルコール度数】…何度のお酒(25%の焼酎)を水や炭酸などで、どのような比率(4対6、1対1など)で割るか(薄めるか)ご記入ください。

\* 氷の部分は除く。

【飲む量】…どのくらいの大きさのコップ(200cc、500ccなど)で何杯飲むかご記入ください。

**(お店で飲む場合の注意)**

【お酒の種類】…お酒の名前(ビール、酎ハイ、レモンサワーなど)をご記入ください。

【アルコール度数】…注文したお酒の度数が分かる場合はご記入ください。

【飲む量】…グラス(200cc)、中ジョッキ(500cc)、大ジョッキ(1,000cc)、おちょこ(30cc)、ワイングラス(120cc)、ショットグラス(30cc)などで何杯飲むかご記入ください。

## アルコール換算表

種類	量	単位(g)
(1) ビール(5%) 発泡酒	コップ(200ml) 1杯	8
	小ビンまたは 350ml カン1本	14
	中ビンまたは 500ml カン1本	20
	大ビンまたは 633ml カン1本	25
	中ジョッキ(500ml) 1杯	20
	大ジョッキ(1,000ml) 1杯	40
(2) 日本酒(15%)	1合(180ml)	22
	お猪口(30ml) 1杯	4
(3) 焼酎(20%)	1合(180ml)	29
	焼酎(25%)	36
(4) 酎ハイ(7%)	コップ1杯(200ml)	11
	350ml カン酎ハイ1本	20
	500ml カン酎ハイ	28
	中ジョッキ(500ml) 1杯	28
酎ハイ ストロング (9%)	350ml カン酎ハイ1本	25
	500ml カン酎ハイ	36
(5) ハイボール(7%)	350ml 缶 1本	20
	500ml 缶 1本	28
	ハイボール(9%)	25
	500ml 缶 1本	36
(6) カクテル類(5%)	コップ(200ml) 1杯	8
	350ml カン1本	14
	500ml カン1本	20
	中ジョッキ(500ml) 1杯	20
(7) ワイン(12%)	ワイングラス(120ml) 1杯	12
	ハーフボトル(375ml) 1本	36
	フルボトル(750ml) 1本	72
(8) ウイスキー、ブランデー、ジン、ウォッカ、ラムなど(40-45%)	シングル水割り1杯(原酒で 30ml)	10
	ダブル水割り1杯(原酒で 60ml)	20
	ショットグラス(30ml) 1杯	10
(9) 梅酒(14%)	1合(180ml)	20
	お猪口(30ml)	3

**注意:**

- 1) 単位は、グラム数です。
- 2) 発泡酒はビールと同じ。
- 3) カクテル類とは、果実味などを含んだ甘い酒をいう。
- 4) 梅酒は市販のものだけ計算(自家製は含めません)。



**調査票②面前記入。** 以下のA 1からA10の各項目について、最もあてはまる回答の番号に○をつけてください。

A 1. あなたは、ふだん酒類（アルコール含有飲料）を、平均するとどのくらいの頻度で飲みますか。（○は1つ）

1	2	3	4	5
まったく 飲まない	1ヵ月に 1回以下	1ヵ月に 2～4回	1週間に 2～3回	1週間に 4回以上

A 2. 飲酒するときには、通常どのくらいの量を飲みますか。次の表を参考にお答えください。（○は1つ）

・「日本酒」1合＝2単位	・「ビール」大瓶1本＝2.5単位
・「ウイスキー」水割りダブル1杯＝2単位	・「焼酎・泡盛」お湯割り1杯＝1単位
・「ワイン」グラス1杯＝1.5単位	・「梅酒」小コップ1杯＝1単位

1	2	3	4	5	6
まったく 飲まない	1～2単位 以下	3～4単位	5～6単位	7～9単位	10単位 以上

A 3. 1度に6単位以上飲酒することがあります。あるとすればどのくらいの頻度ですか。（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 4. 飲み始めたらやめられなかったということが、過去1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 5. 普通の状態だとできることを飲酒していたためにできなかったということが、過去1年間にどのくらいの頻度でありましたか。（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 6. 深酒の後で体調を整えるために、翌朝飲酒（迎え酒）をしなくてはならなかったことが、過去1年間にどのくらいの頻度でありましたか。（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 7. 飲酒后、罪悪感や自責の念にかられたことが、過去1年間にどのくらいの頻度でありましたか。（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 8. 飲酒のため前夜の出来事を思い出せなかったことが、過去1年間にどのくらいの頻度でありましたか。

（○は1つ）

1	2	3	4	5
な い	1ヵ月に 1回未満	1ヵ月に 1回	1週間に 1回	毎日あるいは ほとんど毎日

A 9. あなたの飲酒のために、あなた自身か他の誰かがけがをしたことがありますか。(○は1つ)

- |                 |                           |                      |
|-----------------|---------------------------|----------------------|
| <b>1</b><br>な い | <b>2</b><br>あるが、過去1年間にはない | <b>3</b><br>過去1年間にある |
|-----------------|---------------------------|----------------------|
- 

A10. 肉親や親戚、友人、医師、あるいは他の健康管理にたずさわる人が、あなたの飲酒について心配したり、飲酒量を減らすようにすすめたりしたことがありますか。(○は1つ)

- |                 |                           |                      |
|-----------------|---------------------------|----------------------|
| <b>1</b><br>な い | <b>2</b><br>あるが、過去1年間にはない | <b>3</b><br>過去1年間にある |
|-----------------|---------------------------|----------------------|
- 

A11. あなたが、もっともよくお酒を飲む場所はどこですか。(○は1つ)

- |                               |                                 |
|-------------------------------|---------------------------------|
| <b>1</b> 店(飲食店、居酒屋、スナック、バーなど) | <b>4</b> 屋外(公園、スポーツ観戦場、キャンプ場など) |
| <b>2</b> 自宅                   | <b>5</b> 職場                     |
| <b>3</b> 友人や知人の家              | <b>6</b> その他(具体的に )             |
|                               | <b>X</b> お酒を飲まない                |
- 

A12. あなたが、もっともよく一緒にお酒を飲む人は誰ですか。(○は1つ)

- |                          |                        |                      |
|--------------------------|------------------------|----------------------|
| <b>1</b> 配偶者(夫もしくは妻)     | <b>5</b> 近所の友人         | <b>8</b> 勤め先の同僚や上司   |
| <b>2</b> 親もしくは子          | <b>6</b> 趣味やサークル活動の友人  | <b>9</b> 勤め先の顧客      |
| <b>3</b> ひとりで            | <b>7</b> 学校の友人、学生時代の友人 | <b>10</b> その他(具体的に ) |
| <b>4</b> パートナー(彼氏、彼女、恋人) |                        | <b>X</b> お酒を飲まない     |
- 

A13. あなたが、もっともよくお酒を購入する場所はどこですか。(○は1つ)

- |  |                         |
|--|-------------------------|
| <b>1</b> お酒を購入しない                        | <b>4</b> 酒屋             |
| <b>2</b> 店で飲む                            | <b>5</b> コンビニ           |
| <b>3</b> スーパー、ドラッグストア、量販店、<br>ディスカウントストア | <b>6</b> 自動販売機          |
|  | <b>7</b> 通信販売、インターネット販売 |
- 

A14. あなたが、お酒を飲むときに、飲食店の飲み放題メニューを利用することがありますか。(○は1つ)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| <b>1</b> 利用したことはない      | <b>5</b> 週に1、2回       |
| <b>2</b> 過去にはあるがここ1年はない | <b>6</b> 週に3、4回       |
| <b>3</b> 年に数回           | <b>7</b> 毎日あるいはほとんど毎日 |
| <b>4</b> 月に1、2回         |                       |
- 

A15. あなたが、ふだん、お酒を飲み始める時間は何時ごろですか。

( 時ごろ)

---

A16. あなたは、ふだん、お酒を飲み終える時間は何時ごろですか。

( 時ごろ)

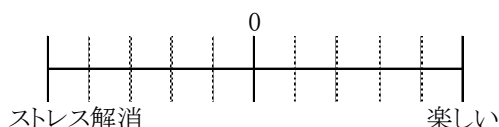
### 調査票③ インタビュー調査<半構造化面接> 調査員記入欄

多量飲酒、問題飲酒の背景や経緯を訪ねる面接調査票です。対象者に合わせて、適宜強弱をつけて質問してください。回答による心理的負担のため、対象者に強いストレス反応が見られた場合は、質問を止める、心理的支援をするなど適宜対応してください。

問0. いままでの飲酒行動

問1. 学生時代の飲酒体験について

飲み始めのきっかけ、象徴的な体験・経験、お酒を飲む場面、飲み方お酒を飲むときの理由



問2. 最近の飲酒の状況

初めての飲酒経験(年齢、場面)

飲酒場面、酒の入手経路、初飲酒からの飲酒頻度と量の変遷

多量飲酒をもたらす要因、飲酒欲求が高まる場面・要因、

飲酒に関連するトラブル、違反・事件等の経験、

摂食障害等の依存症及び嗜癖行動に関連した要因の有無、

職場や学校でのストレスになる体験、

医療の受療状況(アルコールについての専門医療を含む)、

飲酒に費やしている費用、飲酒の健康影響についての知識、飲酒についての社会的規制に関する態度

飲酒場面(誰と ;ひとりで飲む、家族で飲む、みんなで飲む)

(どこで:家、外)

飲酒理由;自ら飲むか? 飲みたいほう

飲みたいわけではないが付き合う

できるだけ飲まない

酒を飲む理由

(お酒の味が好き、飲む雰囲気が好き、人とワイワイするのが好き

気分がよくなる(酔った感覚が好き)、酔うとリラックスできる

酔うと人とコミュニケーションが取りやすくなる、酒の席だと人と話やすい

酔うと嫌なことを忘れられる、酔うと寝れる

不安な気持ちや嫌な気持ちを解消したい、ストレスがあると酒に手が伸びる

職場のストレス解消、家庭のストレス解消、付き合いで仕方なくいくことが多い

誘いを断れない等)

酒の準備; 自宅に据え置きのお酒がある

(ビール(発泡酒)・缶チューハイ・その他缶のアルコール飲料・日本酒・焼酎・その他( ))

問 I . 生育環境—家族の環境についてお尋ねします。

問3. 子どものときの家族の状況

家族はあなたにとってどういう存在でしたか?

父親の存在

母親の存在

その他同居の家族

問4. 子どものとき、家族に大切にされていると感じていましたか

感じていた・少し感じていた・あまり感じていない・感じていない

問5. 子どものとき、家族を大切に思っていましたか？

思っていた・少し思っていた・あまり思っていない・思っていない

問Ⅱ. 逆境的小児期体験

問6. 子どものときのつらかった経験/18歳までの大変な経験(ライフイベントや経験・体験)

問7. 子どものころの楽しかった思い出

問8. 子どものころの貧困/子どものときの暮らし向き/経済状態はどうでしたか

家族が必要とする食料が買えない

家族が必要とする衣料が買えない

電気、ガス、電話代の未払い

問Ⅲ. 家族の飲酒状況

問9. 家族で飲酒している人はありましたか

父 飲んでいない・

飲んでいた(回数 量 ):問題飲酒・アルコール依存・嫌悪感

母 飲んでいない・

飲んでいた(回数 量 ):問題飲酒・アルコール依存・嫌悪感

(その他の家族1 ) 飲んでいない・

飲んでいた(回数 量 ):問題飲酒・アルコール依存・嫌悪感

( その他の家族2 ) 飲んでいない・

飲んでいた(回数 量 ):問題飲酒・アルコール依存・嫌悪感

問Ⅳ. アルコール・ハラスメント

問10. アルコールハラスメントの経験がありますか？(飲酒に関連する迷惑行為の総称。暴言、暴力、セクシャル・ハラスメント、悪ふざけ、ひんしゆく行為、飲酒の強要、イッキ飲ませ、意図的な酔いつぶし、家族の飲酒問題の世話・後始末、飲めない人への配慮を欠くこと等を指す。)

いつ、どんなときに

内容例 ソフトドリンクを頼めない、酒が断れない(飲酒の強要)、コールを振られる

イッキ飲み等

質問Ⅵ. 生活習慣、社会人口学的要因

1) 喫煙状況

2) 睡眠障害:睡眠の質、睡眠時間、就寝時間、入眠困難、中途覚醒、早朝覚醒

- 3) インターネットの過剰使用:使用時間(平日)、過剰使用により発生した問題
- 4) こころの健康:生きがい、気分の落ち込み
- 5) 社会人口学的要因;性、年齢、職業、家族構成、学歴、収入

ご協力ありがとうございました

謝礼をお渡しますので、受け取りのサインをお願いします。